

グローバル化時代に生きる現代の子供たちが大学進学を選択する際、日本だけでなく世界中の大学に視野を向けて選択することを勧めたい。

しかしながら、海外の大学進学について、教育内容や費用等を念入りに検討することは重要である。

本著は、海外の大学について、アメリカ駐在のライブラリアン(図書館に於ける日本研究部部长)と日本の大手書店企業の営業マンによる「海外の大学に留学するための様々なアドバイス」が、彼らが実際に得た情報を元にして詳細に書かれている。

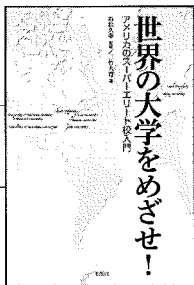
はじめに日本人が持っている世界の大学についてのイメージと実際の相違点等の10項目についてQ&Aで書かれている。

「海外の大学授業料は妥当といえるか?」の章では、「日本の一流大学で学部で4年間を過ごし、そのあと念入りの調査と準備を持って、アメリカ一流大学の大学院へ進む。この方法が

石松久幸 監修、三竹大吉 著

1620円 松柏社

☎03-3230-4813



世界の大学をめざせ!

アメリカのスーパーエリート校入門

コストパフォーマンスの面からベストの選択」であると述べている。また、「海外で必要なのは、日本を語れるというところ」の章では、「まず準備すべきは自分の国、つまり日本のことを外国の人にしつかり説明できることであり、「国際人」とは、自分のこと、日本のことをしつかり身につけ、説明できるようにしておくこと、それこそが、世界へ出て行く国際人としての心構えではないだろうか?」と主張している。

第二章の「ライブラリアンの見た世界の大学」では、留学について、費用や就活の課題等を様々な事例を挙げながら情報を提供している。「自分の大切な人生を『最善の時に最善を信じ感謝して生きますよ。』夢は捨てないで、意志のある所に道は必ず開けます。」という横田氏の言葉に励まされた。

第三章では「世界の大学案内」が記されている。プロフィールや口ケースション等だけでなく、筆者が実際に各キャンパスで得られた情報からのコメントが興味深い。

(愛知教育大学教授・高橋美由紀)